

Vol.29

ススキの穂が秋を感じさせます

今年も9月半ばから園内にススキが穂を出し始めました。キキョウやナデシコなどとともに秋の七草とされています。俣野幼稚園側の斜面に多く生えています。



ススキはイネ科のススキ属の植物で、似た植物としてはオギがあります。同じススキ属の植物で、花穂がない時点では根元を見て判断します。ススキは株立ち状に生えるのに対して、オギは平面的に広がって生えます。また、花穂が広がると、ススキはノギというトゲの様な毛が生えるのに対してオギにはありません。この特徴から園内のススキ属を見分けると、ほとんどがオギのようです。



しかし、植物分類上でもススキ属なのでススキと呼んでも良いのではないのでしょうか。

ちなみに、カヤという呼び方もありますが、カヤ(茅)は茅葺屋根の材料のことで、ススキ以外にもヨシやチガヤなども含めた屋根材料に使いやすいイネ科植物の総称です。

また、西洋ススキと呼ばれるパンパスグラスは、ススキに似ていますがシロガネヨシ属で南米やニュージーランドが原産地です。

先日、ハロウィン用のリース(右の写真)づくりイベントを行いました。その中心を飾るフクロウは、ススキ類の花穂を使って作りました。作成時は花穂が開いていない状態でしたが、時間とともに開きだし、もっこりした様子は本物のようです。レストハウス内で展示販売していますので、ぜひご覧ください。

